

ChiKaRa

20

すずかけセントラル病院 広報誌

Vol. 20

特集

たまにしかない一過性の動悸
ふらつきを伴うめまい



CONTENTS 嚥下障害に対する取り組み お知らせ・イベント情報

表紙の人 すずかけセントラル病院 循環器内科
出口 喜昭

INFORMATION

第5回 すずかけふれあい祭を開催

10月29日(日)に、第5回すずかけふれあい祭を開催しました。当日は台風の影響で雨天でしたが、500人を超える地域住民の皆様にお越し頂きました。屋外での「すずかけ屋台」は中止となりましたが、無料健康チェック、キッズコーナー、チャリティバザーや、「マルシェ・タジリ」の皆様による新鮮野菜の販売など、屋内はどのも大賑わいでした。また恒例となっている、江西中学校吹奏楽部による演奏会に加え、開院5周年を記念して、浜松市出身のソプラノ歌手 柳澤利佳さんが感動的なステージを披露してくださいました。

ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



穂の香看護専門学校臨地実習

穂の香看護専門学校は、穂の国東三河の北「新城市」にあります。臨地実習では、学生が学習した知識をもとに、看護専門職として看護の対象を総合的に理解し、実践に必要なアセスメント能力及び看護実践能力、対人能力の育成を目指しています。

当院では、昨年度から実習提携医療機関として1年生と3年生の学生を受入れています。6月…慢性期看護、7月…老年期看護、10月…統合看護、11月…3月…基礎看護の各専門領域を3週間ずつ実施しています。学生が看護専門職として、実践に必要な基礎的能力及び態度を養えるよう、臨床での学習環境の整備に努めています。

浜松卸商団地まつり

平成29年10月14日(土)、第18回の浜松卸商団地まつりが開催され参加してきました。

春に引き続き、健康バスを展示しながら超音波装置による「無料骨密度測定」を職員5名で実施しました。286名の方がご利用されました。



健診バス新車紹介

この度、健康管理センターの出張健診バス2台が新しくなりました。新車後部にはセントラル病院キャラクター「すずりん」がペイントされています。気持ちも新たに皆様のごところへ健診にお伺いします。



編集後記

紅葉狩りの季節になりました。「狩り」は獣や野鳥を捕まえることや、拡大して果物を取る時に使われています。それがいつしか草木を眺める時にも使われるようになりました。また、狩りをしない貴族が「自然を愛でること」を狩りに例えたという説もあるようです。自然を愛でるのも良いのですが、みかんやりんご、柿といった果物も美味しい季節になります。くれぐれも食べ過ぎには注意しましょうね。



浜松市南区田尻町120-1

TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112

http://www.suzukake.or.jp

発行 すずかけセントラル病院 広報委員会

発行日 平成29年 11月 10日



たまにしかない一過性の動悸

ふらつきを伴うめまい

こんな症状ありませんか？

動悸や失神を主訴に受診される場合、症状は「前日の夜であった」とか「時々見られるから」といった症状が改善してから受診される方が多いため、受診時に異常が見られないことが少なくありません。だからといって異常がないとはいえず、診断に苦慮することがあります。一般的には、ほんの数分の動悸程度ならそれほど問題にはならない場合が多いのですが、動悸の後に失神や「意識が遠のく感じがした」といった場合には、生命に直結するような不整脈が原因のことがあります。これらに対しては発作時に記録して診断することが重要です。しかし発作はいつ起こるかわからないため、記録することは困難です。このような症例に対し、近年、植え込み型心電図による長期連続での記録観察が可能となりました。

植え込み型心電図

植え込み型心電図は前胸部の皮下に機械を植え込むことにより、最長3年間の持続的な心電図モニタリングが可能で、いつ起こるか分からない失神や、脳梗塞の主な原因の一つである心房細動等の不整脈、特に発作が数ヶ月に1回といった場合に対しては、ホルター心電図検査では検査時間が短く、発作の記録は困難です。



嚥下障害に対する取り組み

【嚥下障害とは】

普段私たちは、当たり前のように食事をしていますが、老化や何らかの疾患により嚥む力や飲み込む力が衰えて、誤嚥しやすくなります。誤嚥とは、飲食物が誤って気管に入ってしまうことです。嚥下障害は人間が生きていくために必要な「食べる」という行為であり、QOL（生活の質）を大きく左右するものです。そのため、多職種による支援が必要です。

【嚥下リハビリテーション】

当院では、嚥下障害のある患者さんに対し、言語聴覚士（S.T.）が評価やリハビリを行っています。S.T.は現状の嚥下機能について、どういった形態の食べ物をどのように食べれば安全なのか評価を行います。飲み込みの機能が弱ついても、食事の形態や食べる時の姿勢、食べるペースを変えれば、安全に食べられることがあるからです。評価の結果を基に、機能に合った食事の提供を栄養科に依頼します。

並行して機能が良くなるように口の体操や発声練習などのリハビリを行っています。また、入れ歯が合わない等、口のトラブルがある場合は、歯科の介入を依頼することもあります。

【口腔ケア】

飲み込みに影響する口のトラブルとは、歯がない、入れ歯がゆるい、虫歯、口の乾燥などがあります。食べ物が噛めない、噛めないから唾液の分泌が少ない、唾液の分泌が少ないから飲み込めない、といった悪循環が生じます。



これに対して機械を体内に植え込むことで、失神の原因が不整脈など心臓の病気に由来するものなのかどうかを判断することが可能となります。また皮下の植え込みとはいっても図のように非常に小さく日常生活にはほとんど影響ありません。



大きさは 約45×8 mm

症例

62歳女性。これまで数回めまい・ふらつきを認め、総合病院受診。そこで耳鼻科、脳神経外科さらには循環器科にて精査施行もいずれも異常は見られずに経過観察となりました。その後めまいから転倒さらに顔面を強打し、救急受診となりました。このような経過で原因が不明なため、本人と相談の上、植え込み型心電図を植え込むこととなりました。その後数ヶ月はとくに問題はありませんでした。その後電柱に衝突。このときは植え込み型心電図が植え込まれていたため、その記録から症状の出現時に数秒の心停止が見られていた事がわかりました。（下図参照）

これにより、これまでのめまい等の症状は一過性の徐脈（数秒の心停止）による症状と診断し、後日ペースメーカーを植え込みました。その後は、めまい等の症状は見られていません。

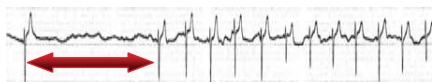
発作時の記録

①・② 『植え込み型心電図より』

①失神直前（気分が悪くなっている）



②失神時（約8秒の心停止が見られている。その後速やかに回復）



まずはご相談を

めまい・失神の多くは一過性の血圧低下由来の比較的良好なものがほとんどです。その中で頻度は少ないのですが、心臓由来の場合は突然死につながる可能性があります。そのため、頻回に失神が見られる場合や心配な人は専門医に相談してみてください。



筆者

出口 喜昭

（循環器内科）

口の乾燥の原因として、老化や薬の副作用があります。『嚥む』ということは、歯で食べ物を切断、粉碎し唾液と混ぜ合わせて飲み込みやすい形を作る消化作用の第一段階です。口にトラブルがあると、『嚥む』という行為に悪影響を及ぼし、食欲の低下、体力の低下に繋がります。

口のトラブルを早期発見、早期に対処するため、当院では歯科衛生士が口腔ケアを行なっています。口腔ケアは口の中を清潔にするだけでなく、『嚥む』というのに必要な唾液の分泌を促進し、舌・頬などの口腔機能の維持・回復に繋がる大切な役割を担っています。



【食形態】

当院の食形態は、大きく分けて「常菜食」「軟菜食」「ソフト食」「嚥下食」「嚥下訓練食」の5つに分類されています。その中でも、「ソフト食」「嚥下食」「嚥下訓練食」は、重度の嚥下障害のある患者さんに提供しています。

「ソフト食」は、食材の形はありますが、舌と上顎で簡単に押しつぶすことのできる食事です。また、口の中のまとまりや送り込みにも配慮しています。

「嚥下食」は、食材をピューレ状、ペースト状に加工した食事です。簡単な口の動きでも食べることができるよう、口の中のべたつきやまとまりに配慮しています。

「嚥下訓練食」は、何らかの理由により一時的に食べることができなくなった患者さんが、再び食べることができるよう訓練として食べる食事です。ゼリー・プリン・ムース状の食品が主で、最も誤嚥のリスクに配慮しています。このように、当院では誤嚥を予防するために、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会が提唱している「嚥下調整食分類」を参考に食事を提供しています。これは当院だけでなく、近隣の病院や施設でも、同一の指標を利用することで食形態の情報共有することが出来ます。「食べる」という行為を支援するために、院内だけでなく、地域が一体となり取り組みが重要です。

